

# 稲美町総合教育会議 会議録

(令和4年度第2回)

- 1 開催日時 令和5年2月22日(水) 開会 14時00分  
閉会 15時34分
- 2 開催場所 稲美町役場303会議室

## 3 会議に付した事項

### 1. 開会

### 2. あいさつ

### 3. 協議・調整事項

(1) ① 中学校部活動の地域移行(生涯スポーツ、文化活動の振興)について

② 稲美町町史編さん事業について

(2) 自由討議

### 4. その他

(1) 第2次稲美町教育振興基本計画(大綱)にかかる点検評価報告書について

(2) 次回開催予定について

### 5. 閉会

## 4 構 成 員

稲 美 町 長		中 山 哲 郎
稲美町教育委員会	教育長	北 谷 錦 也
稲美町教育委員会	教育長職務代理者	後 藤 哲 夫
稲美町教育委員会	教育委員	本 多 澄 子
稲美町教育委員会	教育委員	高 田 道 夫

稲美町教育委員会 教育委員 松 田 緑

## 5 事 務 局

経 営 政 策 部 長	井 上 勝 詞
経営政策部企画課長	赤 松 嘉 彦
教 育 政 策 部 長	沼 田 弘
教育政策部生涯学習担当部長	
兼文化の森課長	山 本 勝 也
教育政策部教育課長	奥 陽 一
教育政策部学校教育担当課長	野 邊 久 美
教育政策部管理担当課長	井 上 智 久
教育政策部人権教育課長	瀧 口 泰 広
教育政策部生涯学習課長	北 口 和 美

## 6 開 会

司会(井上経営政策部長)

それでは定刻となりましたので、只今から令和4年度第2回稲美町総合教育会議を開催いたします。

私は、本日の進行を務めさせていただきます経営政策部長の井上でございます。

この会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4により、地方公共団体の長が設ける会議でございます。

本年度は、昨年8月24日に第1回を開催させていただき、今回が2回目の開催でございます。会議内容等の詳細につきましては、後ほどご説明いたしますので、よろしくお願ひ申し上げます。

はじめに、中山町長からごあいさつをお願いいたします。

中山町長

皆さん、こんにちは。町長の中山でございます。

委員の皆様におかれましては、平素からさまざまな分野でご尽力いただいておりますこと、本当にありがとうございます。季節の方も春が近づいてまいりました。そういった意味で卒業式、卒園式も行っていくことになるのですが、コロナが依然として、そして今年はインフルエンザも流行っておりますので、教育現場の先生方におかれましては、感染症の予防であったり、それから授業のやりくりであったり、そういった面でご苦勞をおかけしているところがございます。この場をかりて、厚く御礼申し上げます。先ほど井上部長から

もありましたが、平成27年度から地方教育行政の組織と運営についての法律という形で施行されて、それ以来、いわゆる首長と教育委員会としっかり連携をしながら、課題を共有しながら、より良い地方教育行政を進めていこうというものであります。

本日は2回目の会議になりますが、このあとの協議事項、自由討議でもしっかりと時間を取って、皆様と連携を図っていききたいと思えます。

本日3月議会定例会初日を迎えます、令和5年度の予算の提案をして参りました。せっかくの機会ですので、皆様にもこれから議会でご審議いただく教育に関する案件について、少し見ていただきたいと思えます。

2ページ目、総合計画で申し上げますと、「生涯にわたる学びを充実し夢と志を育むまち」という形で、ここが教育に関するいろいろな施策として、主なものをご紹介します。1番目は、ICT 利活用学校支援事業、ICT に関してはもう進めているのですが、令和5年度から新聞社の方で、紙面をネットに上げて、子ども達が見やすくしたものもあります。それを学校で見ながら、みんなで話し合う、そういった形の学習を取り入れていきたい、教育に新聞を取り入れていこうということでございます。それから、上から3つ目なのですが、母里小学校の大規模改造事業という形で、稲美町のおいしい学校給食をしっかりと提供するために、母里小学校の給食室を令和5年度に改造していこうとしているところでございます。真ん中あたりに、幼稚園教育計画策定事業というのがございます。幼児教育の在り方について、方向性などを委員の皆様と考えていこうという形で、計画をしているところでございます。ちょうど今日の議題にもなっていますが、中学校部活動地域移行推進事業であったり、町史編さん事業、こういったものも令和5年度の主要施策になっておりますので、よろしくお願ひします。その他、スポーツ施設等予約システムという形で、ネットを使って、いろんな施設が予約できますので、稲美町の方でもスポーツ施設であったり、文化会館等がネットで予約出来るようにしていきたいと思っております。その他、トップアスリート招待事業、昨年稲美中学校の女子駅伝チームが大活躍をしてくれましたが、そういったいろいろなスポーツの分野で、世界に羽ばたく子ども達が稲美町から輩出されるように、トップアスリートに来ていただいて、直接指導していただく、そういった場を作っていきたいと思っております。いろいろあるのですが、行政としては、教育委員会と一緒に充実させていきながら、子ども達の為にしっかりと行っていききたいと思えますので、本日はいろいろなお意見を頂戴したいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。

司会（井上経営政策部長）

ありがとうございました。続きまして、北谷教育長、ごあいさつをお願いいたします。

北谷教育長

皆さん、こんにちは。教育長の北谷でございます。先ほど、中山町長からもありました

ように、平素は学校教育、子ども達の育成、ならびに社会教育、町民の皆様の文化活動ですとか、ご尽力いただきありがとうございます。新型コロナウイルスの感染症、コロナ禍と言われて3年が過ぎて4年目に入りました。コロナに対する取組、対応の仕方も随分変わってきているところがあります。この近くで言いますと、卒業式、入学式が予定されています。いままではマスクをつけて、あるいは保護者の方も含めて、会場に入られる方を制限して、というような卒業式や入学式でしたが、この卒業式からは、新聞等の報道でもご存じの通り、子ども達と先生方については、基本マスクなしでも大丈夫ですよという、もちろん不安のある方はマスクを着用していただいても構いません。保護者の皆様の数は制限しませんが、ご臨席いただく、事務局、町当局代表の方については、マスクをつけていただくという事で進めたいと思っております。特にこの中学3年生は、入学してから、友だちの顔があまりわからないというようなこともあるかも知れませんが、せめて最後はみんなでマスクを取って、明るい笑顔をそれぞれを応援し合って、支え合って、いい卒業式、また新しい仲間が増える入学式が出来たらと思います。総合教育会議ということで、コロナ対策だけではなく、さまざまな課題があります。それぞれの課題につきまして、このコロナ禍で私たちは、普通である事がどんなに尊い事か、その中で何を大切にし、私たちはこれから、地域の皆さん、あるいは仲間と一緒に生活していかなければならないということを見つめ直す機会をいただいたのかなと思います。このコロナ禍が終わった後、新しい生活様式と言われていますが、その新しい生活の中で、私たちが何を目指していくのか、子ども達の成長の為に何をしていたら良いのか、町民の皆様の幸福の為に何を大切にしていくのか、そういう意見交換ができればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

司会(井上経営政策部長)

ありがとうございました。

本日の会議の出席者は、別紙「令和4年度 第2回稲美町総合教育会議出席者名簿」のとおりでございます。

なお、松田様がこの度初めて総合教育会議にご出席いただいておりますので、前回の説明と重複する部分もございますが、本会議の構成員等についてご説明させていただきます。

会議の構成員は、町長と教育委員会委員の皆様で、事務局は企画課と教育課、人権教育課、生涯学習課、文化の森課が担いますので、よろしく願いいたします。

当会議の議長は、稲美町総合教育会議規則第4条の規定により、町長が務めることになっております。また、この会議は、同規則により原則公開で議事録を作成することとなっておりますのでご了解いただきたいと思います。

それでは、町長の方で会議の進行をお願いいたします。

中山町長

それでは、規則に基づいて議長を務めさせていただきますので、ご協力のほどよろしく  
お願い申し上げます。

最初に、会議の傍聴を希望する者が4名ありますが、稲美町総合教育会議規則第9条の規  
定により、許可することとしてよろしいか。お諮りします。

教育委員

異議なし。

中山町長

ありがとうございます。それでは、稲美町総合教育会議規則第9条の規定に基づき、許  
可することといたします。

それでは、令和4年度 第2回稲美町総合教育会議次第の3. 協議・調整事項について進め  
てまいります。

まず最初に、(1)「中学校部活動の地域移行(生涯スポーツ、文化活動の振興)につい  
て」の説明を事務局からお願いします。

沼田教育政策部長 (資料説明省略)

中山町長

「部活動の地域移行について」の説明がありました。これについて、ご意見があればお  
願いします。

もうこの話に関しては、いろいろとみんなが考えた状況になっていると思うのですが、  
子ども達はどう思っているのでしょうか。今も部活動でいろいろやっていると思うので  
すが、こんな風になるんだというような不安に思っているのか、楽しみに思っているのか、  
いかがでしょうか。

奥教育課長

現状、今年度につきましては、どのような体制で移行していったら良いのか、どのよう  
に動いていくのか形を作っていくところに、先生方も含めながら話し合いをしております。  
次年度いくつか考えられる方策を試行し、子ども達や保護者の意見、考え方も含めていき  
たいと考えております。まだ今年度は、どのようなステップで動かしていくかの、大きな  
枠組みのところですので、子ども達、保護者の考え方までは、今年度はまだ聞いていない  
という状況です。

中山町長

ぜひ進めていく上で、子ども達にも情報を発信したいと思いますので、しっかり意見を聞いて進めていくようにしていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

他にご意見はございませんか。

#### 後藤教育委員

この部活動の地域移行については、先生方は日曜日も放課後もずっと時間を割かれて、体力的にも非常にきついですし、責任上もいろいろ問題はありますし、自分が得意でないものも顧問として教えていかなければならないプレッシャーとか、いろいろなものが積み重なって、先々無理強いできないということで、もう変更せざるを得ない、そういう状況になっていると思います。それは確かに、私が何十年も部活動を経験した者としては、大変厳しい点ではあるのですが、一方かつての中学校の教師になろうとする者は、部活動は当然教えるものという、そういう気持ちで学生時代から自分で身につけて、それを子ども達と一緒に育てていくという、伸ばしていくという、それが出来るという事で教員になる人も結構いたわけです。そういう人が、中心になってずっと支えてきて、他の先生方もそれに巻き込まれる、という言い方はおかしいですが、そういう先生に教わりながら、だんだん自分も成長していった指導者になっていく、そういう時間がずっと続いていたわけです。ここにきて、仕事に対しての疑問というか、このままでいいのだろうか、ということが出てきた、それは確かにわかります。最初からそういう気持ちを持っていない人が、やりなさいと言われたらどれだけ大変かわかりますので、方向転換は仕方ないと思うのですが、非常に難しいところがございます。たとえ形が出来ても、なかなかそれが子ども達にとっても充実感のある、指導者の方もスムーズに受け渡しができるというか、心配の方が強いです。20年ほど前に明石市が一回行いました。部活動の方が大変だから、地域指導者に任そうということで、全部ごっそり任せた。平日も日曜日も試合の引率も、2年ほどやったと思うのですが、3年4年はもちませんでした。結局いろんな問題が出てきて、やっぱり学校がせざるを得ないという形になりました。詳しいところまでは知りませんが、今回はとりあえず土日のどちらか一日だけやろうということで、やってみて、いろんな問題が起こると思うのですが、今後の事を考えると、一つずつ乗り越えていきながら、やっていかなければならないと思っております。

#### 高田教育委員

後藤先生がおっしゃったいろいろな問題があると思うのですが、地域の方が指導者の場合に、その方法はまずいですよとか、なかなか学校の先生が言いにくいのではないかと、自分たちは一般市民である町民であるという気持ちがものすごく強いので、学校の先生方がその方に何か指摘するというのはものすごく勇気がいることだと思います。極端な話を言いましたけれども、そういう問題をクリアしていく必要があると思います。

#### 北谷教育長

もちろん今後藤委員や高田委員が言われたような不安というのは、実際に今年度学校の先生方に、あるいは専門の方々に聞く中で、同じような不安というのは出ています。ちょっとイメージ悪いと思うのですが、先生方が手いっぱい忙しくて部活動大変なんだ、先生方が大変なものを地域で引き受けてくれ、中学生の受け皿という言葉はあまり好きではないのですが、子ども達の子守を押し付け合っているような、そういうものでは本来あってはいけないと思うのです。子ども達が中学生が、本当にスポーツや文化活動、そもそもスポーツや文化活動というのは、人生を豊かにするものですし、中学生にとってもそうであると思います。その活動を学校も地域も一緒になって、活動できる場を作っていく、そのことによって、中学生が子ども達が育つだけではなくて、それに関わった地域が育つ、関わった人々が育つ、そして国が言っているように、その地域の文化活動やスポーツ活動が、中学生とともに発展していくというものに、変えていこうというイメージです。しかし、その中でたくさんの大きな課題があると思います。その課題というのは、個人的な問題でこんな人が出てきたらどうしよう、そこばかりに突き詰めるのではなくて、例えば、稲美町として町長がよく言われているように、本当に誰もが住み良い、笑顔でいれるような、町づくりということで、考えていかなければならないと思います。夢みたいな事を言っているかもしれませんが、それを始めるチャンスだと思って、取り組んでいきたいと思っています。その中で出てくる課題は、皆さんの知恵を拝借しながら、関係する者が集まって、一つずつ解決していくという方法を取っていったらと思っています。時間がかかるかもしれませんが、一つ一つの成功事例を重ねていくことを大切に、後藤委員や高田委員が言われた、そのような心配をみんなの力で、特に私は子ども達に期待しているのですが、子ども達の手で乗り越えていただけたらと思います。

#### 高田教育委員

私も心配というかネガティブなことを言いましたが、良い例として、加古大池を通ることが多いので、加古大池で走るクラブの指導者の方々と子ども達の姿を見てみると、こういう在り方も有りだなという感じで、良い例もちゃんと見ておりますので、多くのクラブ活動がああいう風になったら良いなと思っております。

#### 中山町長

続いて、(2)「稲美町史編さん事業について」の説明を事務局からお願いします。

北口生涯学習課長 (資料説明省略)

#### 中山町長

「稲美町史編さん事業について」の説明がありました。  
これについて、ご意見があればお願いします。

#### 高田教育委員

私は、たまたま加古地区の担当を半年ほど前からやらせていただいています。今進めている人によると、前回稲美町史を作った時に、古いお家から資料をいただいて作ったわけなんです、その資料をお返ししたと、そしたら40年経ったら世代が変わって家も建て直すということになって、その当時使った資料がなくなっているケースが非常に多いということです。世代が変われば、ただの紙くずになってしまう危険性があるということと、それから、90歳以上の方だったら、終戦の頃に十何歳、高等小学校を卒業して社会に出て、という戦前の経験も若干持つておられるわけですが、その方々で、きちんと話される人が非常に少なくなってきています。話すのが大変な人、聞くのが大変な人、それから筆談とかで始めているのですが、私は69歳ですが、昭和30年ぐらいのことも小さすぎてわからない。昭和35年ぐらいから、なんとかわかるという感じで、40年間の空白で、上の方の人達はおられるが聞きにくい、若い70前後の人は多いが、子どもとしての思い出は当然あるが、出来るだけたくさんの方から聞けるようにと思って進めております。加古地区で2年間やって、母里地区で2年間やって、天満地区で2年間やって、あと6年のうちに上の方の人は当然亡くなられる可能性もありますので、急いで作らないといけないと思います。ただ一旦作れば、若い頃は稲美町史が分厚いとか、細かいことが書いてあると、どちらかという苦手な感じでしたが、やっぱりある時期になったら、稲美町の歴史に関して、気持ちが変わるところが必ずどの方にもあると思いますので、ぜひ町としても頑張って支援していただきたいと思います。

#### 中山町長

仕事柄、私もよく見ていましたので、仕事に関係のあるところ、ため池だったり農業だったりというところは、見たことがあるのですが、テーマにも書かれてある通り、そこから昔の生活なんかがわかるような、親しみやすいような内容にはなっているのかなと思います。

5ページの下にあるように、古文書の入門講座というのがあって、全体が出来るまでにはすごく時間がかかるのですが、調査を進めていく中でも、発信できることはあると思います。令和5年度も催し物はあるのでしょうか。

#### 北口生涯学習課長

令和4年度も延べ71人の方に参加いただき、とても好評で、続けてほしいという感想をいただいております。できれば多くの方に参加していただいて町史に興味を持っていただけたらと思っています。

中山町長

協力者をどんどん増やしていただいて、先程も高田委員もおっしゃったように、みんなに助けていただきながら、資料を集めていかないとできないと思います。

北口生涯学習課長

すでにいろんな方に、高田委員をはじめ、出会った方に人をまた紹介していただいて、調査の輪が広がっていますので、それをまとめるのに時間がないのですが、頑張っていきたいと思います。

北谷教育長

非常に楽しみにしております。高田委員のお話でもそうですが、5ページの写真も見ただけでも楽しいというか、皆さんに手に取ってもらえる、みんなが楽しんで読める町史を期待しております。

中山町長

続いて、(3)「自由討議」に入らせていただきます。

それでは、まずは私から教育委員の皆様にお聞きしたいと思います。

令和4年度で、小中学校すべてでコミュニティ・スクールが出来ています。私も中学校のコミュニティ・スクールに行かせていただいて、こういう活動をしているんだ、というのを体験させていただいて、一方で、昔から地域学校協働活動というのがあったのですが、ちょっとそのあたりが、同じことをやっているように見えるのです。たぶんそれはそれで趣旨が違う、それから同じ中学校や小学校であっても、参加されている、または関わっている大人たちが違うのだろうと思うのですが、そのあたりもしよろしければ教えていただきたいと思います。

後藤教育委員

コミュニティ・スクールの活動、地域学校協働本部の活動、内容的に重なるような見方もできますし、そのあたりの違いということ聞かれていると思うのですが、両方とも目的としては、教育は学校と家庭と地域が協力して進めていくということです。コミュニティ・スクールや地域学校協働本部の活動などを取り入れる前から、学校とPTAを中心にそういう人たちの中で進められていくということで、周りを取り囲む地域の方とのいろいろな協力とか情報発信そういったことについては、なかなかうまくいかなかった面も大きいということで、この二つの事が徐々に取り入れられてきたと思っています。最初は、地域学校協働活動ということで進められ、コミュニティ・スクールが令和4年度から小中学校で開始になったということです。

学校運営協議会の方は、コミュニティ・スクールの活動の方は、足場が学校の方にあると言えると思います。学校の教育目標を達成するために、地域とどのように協力しながら活動していけば良いのか、という視点から取り組んでいくということで、地域学校協働本部の活動については、足場が地域にあると言えると思います。地域の活性化を図るために、地域の中の教育、知恵、知識、そういったものを子ども達に伝えていく、そういうことを地域の方から働きかけていく。目的としては、学校、家庭、地域が協力して、この形を世に進めていこう、充実させていこうということですが、立つ位置、足場がそれぞれ学校、地域で異なるということです。そういう風な形で取り組みを進めているということです。

中山町長

関わっているのは学校と地域と家庭なので、メンバーは一緒ですが、進んでいく方向というか、目的が違うということですね。

北谷教育長

今、後藤委員が言われたように、コミュニティ・スクール、学校運営協議会というのは、学校の目指す子ども像であったりとか、教育目標というのを実現するために、よりよい学校にするために地域の方々と一緒に考えて一緒に協力して作っていきましょう。その中で、子ども達を育てていきましょうということです。それに対して、地域学校協働本部というのは、地域が主体となって、そこに学校が入って行って地域人材を活用して地域人材に協力していただいて、その特性を活かしてよりよい地域づくり、その中でよりよい子ども達の成長を育てていきましょうということで、まさしく委員が言われたように、足場が学校からスタートするのか、地域からスタートするのかの違いだけで、重なる部分が非常に多いです。

後藤教育委員

例えばということで挙げますと、コミュニティ・スクールの活動で言えば、最近親子でのふれあいが減っているということで、親子で体験活動をしていくという、そこに地域の方も参加していくという、例えば、親子プログラミング教室、またはオタマトーンという楽器なのですが、コロナで吹くという動作がなかなか出来ない、指で押さえることによって音が出るという楽器なのですが、そういったものの教室とか、動物のふれあい教室を開いたり、ということがあります。地域の方が講師になって、地域公開講座というのを開いたり、いなみ冬景色のように町の行事と連携した活動も多くて、その中に児童生徒がボランティアとして参加して、そういう行事を進行していく役を担うということで、子ども達の自主性やリーダーシップ力や表現力、発信力をつける機会となっています。こういったことは、学校生活だけでは味わえない充実感といいますか、町民の一人だという意識が着

実に備わっていく、これまでにない効果が、コミュニティ・スクールの中で育まれていく、これからもいろんな面で可能性があると思っています。一方、よく似た内容もあるのですが、地域学校協働本部の事業としては、大きく分けると3つの活動があります。1つは、土曜体験活動ということで、地域の方が指導されて、「相野飛行場を探そう」、「入ヶ池の水路探検をしよう」ということで、地域の隠れた魅力を子ども達と共に再発見していく、子ども達も地域も学んでいくという活動ができています。地域未来塾というのがあり、小学校5年生6年生を対象に、主に長期休業中などを中心に実施するのですが、卒業生である大学生とか地域の方が、学習支援員となって、子ども達の学力向上を図るという、そこで地域住民と繋がりを深められているということがあります。さらに、放課後子ども教室、毎週金曜日に小学校1年生を対象にしているのですが、地域の方が読み聞かせをされる、また将棋の指導もされるということで、地域の方との交流が進んでおりますし、小学校1年生の放課後の居場所づくりにも貢献しています。コミュニティ・スクールの活動も、地域学校協働本部の活動も、これからメンバーがいろいろ変わっていく中で、新しいものが育まれていくでしょうし、ますます子ども達の学びの内容が豊かになってくる、そういうことがこれから期待できるのではないかと思います。

#### 高田教育委員

先生がおっしゃった中で入ヶ池水路の探検というのがありましたが、加古地区で70年近く生きているわけですが、ある友達に誘われて、入ヶ池を見に行かないかと誘われて、見に行きました。こんなに歴史があって、景色が良くて、人があまり来ない所、加古地区のすぐ隣にあって、地区としては、天満の北山の一番端っこで、ライスセンターの裏側です。普通に生活していたら、行かない、知らない、稲美町のほとんどの人がそうかもしれない。知らないままに過ごしてしまう。地域学校協働本部の活動の中で、子ども達を連れて行って、普段学校生活、地域で生活しているだけでは味わえないすごさというか、感じとることが出来るということで、ぜひ進めていただきたいと思います。

#### 本多教育委員

幼児教育について、質問させていただいてもよろしいでしょうか。令和5年度の幼稚園入園希望者、現在のところ約240名ということで、昨年度と比較すると30名減少しております。今後の幼稚園教育の在り方、給食の実施について、どのようにお考えでしょうか。

#### 中山町長

幼児教育ですが、小学校ごとに幼稚園があって、同じような地域に保育園もあって、昨今の国の子育て支援、無償化の流れで、どうしても、共働きの家庭が、市町によっては若干違うとは思いますが、やっている内容というのは、幼児教育、保育という面で若干違いがあります。保護者から見ると、長い時間ということもありますし、そんな影響で保育

園の方にたくさん流れている状況なのかなと思います。もう一つは、土地利用の問題で、少なくなっているのは、加古と天満南、母里も若干ですが、そういった意味では、市街化調整区域が多いので、なかなか家が建ちにくい、そういった土地柄も影響しているのかなと思います。一方では、少ないからこそいい内容の教育が出来るということもあるでしょうし、その先には、単学級ではなく、複数年を一緒にして学ぶ、異年齢の学びみたいなものも、私は効果があるのでないかと思っています。一つの狭い稲美町の中で、今までは同じようにというのがあったと思うのですが、あまりやり方が違うというのもどうかと思います。多様性のこともありますので、そういった意味では、今までのやり方、地区によっては、先ほど言った、少人数の学びだったり、異年齢の学びだったり導入されてもいいのではないかと思います。ただ、園区はないのですが、通える範囲でというのが多かったもので、多くの皆さんの意見を聞く中で、決めていく部分があると思います。実は令和5年度から幼児教育の在り方の計画策定も進んでいきますので、その中で給食の在り方についても、小学校、中学校も学校給食が始まって、幼稚園でも午後教育がある中で、今はお弁当ですが、おいしい給食を幼児教育の中でも食育と合わせてやっていけたらと思っています。ただ、これもいろんなやり方があります。親子方式でやっているところもあれば、センター方式でやっているところもありますし、なかなかお金の問題と、場所の問題がありますので、それも合わせてしっかり考えていけたらと思っています。ある程度、子どもの人数に関しては、推移を見ながら、方向性をしっかりと決めていきたいと思っています。

前回もこの総合教育会議で少しお話をさせていただいた、不登校の状況であったり、今現在学校教育の中でできている、または今後やっていこうとしている内容、その後、動きがあれば教えていただけますか。

#### 瀧口人権教育課長

今、児童生徒が登校した場合、保健室とか、相談室とか、図書室など、また放課後に来やすいという子もいたり、放課後等も考慮しながら、徐々に学校生活に適應できるように、進めております。また役場のいきがい創造センターにふれあい教室、適應指導教室ということで、そちらも学校と連携を深めて、様々な工夫を考えて、指導をしているところでございます。ふれあい教室は、保護者との連携を深める意味もあって、年4回保護者会を開催させていただいております。今年度新しい事業ということで、1回は父親の会を行いました。どうしても保護者会となると、お母さん方が来ることが多いので、1回お父さん方の意見もということで、父親の会を開催し、連携を深めております。また、学校の方では、今までは稲美北中学校の学校内に校内適應指導教室を置いていたのですが、今年度は稲美中学校にも適應指導教室を設置いたしまして、充実を図っているところです。

令和4年度の9月の補正におきまして、ふれあい教室の書籍の充実や、稲美北中学校には、生徒指導員という町負担の職員を配置しているのですが、稲美中学校にも10月から生徒指

導員の配置ということで、取り組みを進めています。昨今言われるように、不登校児童生徒は増加の一途です。一人ひとり対応の方は個々にしていかなければならない必要がありますので、今後も人についても施設についても、充実を図れるように、準備をしているところです。

#### 中山町長

ふれあい教室やふれあいルームに行けている子ども達と、家庭で過ごしている子ども達と、それ以外の場所という形があると思います。部活動の地域移行の話もあったと思うのですが、今まで私たちが中学生だった頃は100%部活動して当たり前というのがあったと思うのですが、多分今はそうではなくて、地域のクラブに行っていたり、また違う形の部活動に行っていたり、ということもあると思います。学びのスタイルが小学校、中学校だけではなくなってきたと思います。もちろん家でも勉強しようと思えばできるわけですし、ただしっかりと教育を受ける権利を確保するという意味では、誰一人として見過ごしてはいけないと思います。ふれあい教室やそういったところで、来てくれる子ども達に対しては、しっかりとやっていただきたいと思ひますし、それ以外のところで学んでいる、またはそこまで行けていない子ども達、親御さんも含めて多く悩んでいると思ひますので、どうすればいいのか。よく言われるのは、居場所づくりです。まずは安心して居られる場所があれば良いと思ひますし、もう一つ進んでいけば、それだけじゃなくてそこでしっかりと学べるような環境を整えていく。それはハード面であったり、スタッフの面であったり支援が必要だと思ひますので、そのあたりどこを目指すのかというのもあると思ひます。本当に一人一人となっていくと、いろんなパターンがあります。今まででしたら、みんな小学校に楽しく来ており、結果的にそうなるのが一番いいのですが、今現在そうではないという部分がありますので、それに対しては出来るところからしっかりと対応していきたいと思ひます。それは教育、それから生涯学習といいますか、事務局合わせて、今年度またしっかりと考えていく必要があると思ひますので、町として何が出来るのか、委員さんにもアイデアをいただいて、こんな風にしていったらいいのではないかと、こんなこともできますよという形で、進めていきたいと思ひておりますので、よろしくお願ひします。

#### 北谷教育長

今町長が言われたように、また事務局からもあったように、不登校対策というのと、それぞれ子どもさんによって違います。個々の支援をどうするか、学校もふれあい教室も丁寧にやっていただいています。それに合わせて、町として全体として、子ども達の居場所づくりをと考えていただいていることは、非常に嬉しいです。しかし、それだけでは不十分です。昨年度の不登校、登校に課題のある生徒、全国で25万人を超えた、という恐ろしい数だと思ひます。それに対して、ただ単に個々の問題だけ、そこの視点も大切なのですが、

学校っていうものもどうなのかということも、私たちは考えていかなければいけないのかなと思っています。学校や地域、社会として、本当に全ての人が、安心できる場所になっているのか、そのために学校の授業、もちろん学力保障ものすごく大切なんですけど、同時に、今の授業の在り方でいいのかな、子ども達の学びが充実した楽しいものになっているのかなということも含めて、一緒に考えていかなければならないと思います。そうすると、皆さんと話題になった、中学校の部活動もそうですし、コミュニティ・スクールもそうですし、それぞれのところで、皆さん一生懸命いろいろやっただけではないです。それを繋げていくのが、私のやらなければいけないことかなと思うのです。その視点を持つのと合わせて、学校教育そのものを見つめ直すということも必要かと、そのために先生方にもいろいろ学んでいっていただく、そういう機会も作っていかねばならないと思います。

#### 後藤教育委員

不登校のことについて、私も考えるのですが、不登校になったからどうするかっていうのもあり、社会の中で引きこもり、共通して言えるのは、人間関係というか人との接し方の問題になると思うのです。人の中でどう過ごしていくのか。個人的な考えなのですが、僕らの年代、もう70才も超えてくると、自分の精神的な部分、一番基本的なものはなんだったのだろうとよく思います。そうするとやっぱり、4才5才から小学校4年生ぐらいまで、この間の時間はとっても懐かしく思います。近所でわいわいがやがやと男の子も女の子も一緒になってやってました。塾なし、テレビなし、ゲームもスマホもない時代でしたから、子どもらも一緒になって遊ぶしかなかったです。本当に山行き、海行き、川行き、いろんなことでわいわいがやがややって、おしくらまんじゅう、寒かったらみんなでほんとに体こすり合って過ごしたわけです。そういう昔の友だちに会うと、とっても懐かしいし、人間に対して、みんなでいる事は本当に楽しかったなという思いがあるんです。人が怖いとか、人がどう思うとか、そんなこと関係なしにみんなで「わあ」と賑やかにやった、「楽しかったな」という思い出が、今の自分自身の一番の根本にあるのだなという、思いがしております。そういうことがあると、ちょっとつまづいたことでも、何か問題があっても、いや大丈夫という気持ちがあります。人を信じるとか、自分自身を信じるとか、そういうような根っこの気持ちがその時期に、常に大人の監視の中で指導されて育っていつている。何か言われるとできない、ケガもあるかもわからないし、ケンカもあるし、「わあ」とやるそういう感覚というのが育たないまま成長していく中で、いろいろな問題が起こっているのではないかと思います。社会が変わってきたから、そういう問題が出てくるのは仕方ないと思います。

時々東京のある地区の取組がテレビに出てくるのが気になります。そこは、子どもだけの公園なのです。子どもだけの好きな事が出来る公園、いろいろなものを置いてます。薪割りも出来るし、焚き火してもいいのです。雨が降ったら来ないと思うでしょうが、雨が降るとみんな来るのです。なぜかという、滑り台の下に水たまりがあって、滑っていつ

てバシャーンと飛び込むのです。もちろん汚れてもいい服を着て、泥まみれになりながら遊んで、そういう風な場を大人が用意して、小学校高学年ぐらいまでの子が遊び回っている。そういう状態が時々テレビで出てくるのですが、東京のそういう地域ですから、自然はないし、公園もボールを蹴ったらダメなところが多いでしょうし、だからそういう意味で危機感を持って、そういう場所を意識的に作っているということもあるでしょうし、周り近所で集まって来れる子ども達が多いという条件もあると思います。何か子ども達に、本当に楽しいみんなで騒げる、遊べる、そういう場、時間を作れないかなという思いが常にあるのです。そういうことがあると、少々のこと乗り越えていける強さとか、柔軟さとか、人を信頼する気持ちとか、そういう風なことは乗り越える力になっていくと思うのです。具体的には、なかなか言えないですが、幼児教育とかそういったことの中で、子ども達をそういった思いをさせるような取り組みを取り入れていく。小学校でも低学年ぐらいまでは、そういう時間を作って、フリータイムということで、何をしてもいいよと、本読んでも良いし、歌を歌っても良いよ、時間を作って解放してあげる。そういう意識的なものも、今後は必要なのではないかな、常に紐がついているとか、それではかわいそうではないかなと思います。ほんとにそういう世代を時代を過ぎたのも、我々の世代が最後に近いと思うのです。70才以上の方が、そういう感覚があると思うのですが、そういう年代から思う気持ちを言わせていただきました。

中山町長

大変有意義な、意見交換ができました。ありがとうございました。

それでは、次第4.その他に移りたいと思います。

(1)「第2次稲美町教育振興基本計画(大綱)にかかる点検評価報告書について」の説明を事務局からお願いします。

瀧口人権教育課長 (資料説明省略)

中山町長

「第2次稲美町教育振興基本計画(大綱)にかかる点検評価報告書について」の説明がありました。

これについて、ご意見があればお願いします。

ご意見がないようですので、続いて、(2)「次回開催予定について」の説明を事務局からお願いします。

司会(井上経営政策部長)

この会議は、基本的に年1回の開催としておりますが、令和4年度につきましては、6月から新しく町長が就任したため、昨年8月にも開催させていただきました。

次回の開催期日については、来年の2月を考えております。正式に日程等が決まりましたら、町長、教育委員の皆様方にお知らせすることとしたいと考えています。

また、重大事件等協議が必要な事案が発生した場合は、随時の開催とすることとしておりますので、その際にはご協力いただきますようお願いいたします。

中山町長

次回の総合教育会議は、来年の2月に開催いたします。詳細な日程は、事務局の方で調整してください。

それでは、以上で稲美町総合教育会議を終了いたします。

ありがとうございました。